

平成 27 年度 事業報告

1 概況

安倍内閣による「アベノミクス」は、平成 27 年度に入っては、原油価格の下落、中国経済の低迷等の影響を受けて当初の勢いを失って来ている。さらに、年度の後半には、円高、株安の方向に大きく振れてきており、平成 28 年 1 月から 3 月期の大企業・全産業の景気判断指数はマイナスの状況になっており、予断を許さない経済状況となって来ている。

こうした経済情勢ではあるが、香川の労働市場は、求人倍率が引き続き高止まりの状況にあり、若年労働者不足からか、シルバー人材センターの受注も緩やかではあるが伸びる傾向が続いている。

そして、当センターでは、平成 27 年度全体の受注件数は、総額請負方式の推進などから、公共や個人からの受注が減となったものの民間企業からの受注が 7.7%の伸びとなったことから前年度とほぼ同数の 25,096 件となり、-0.03%、7 件の微減に留まった。また、受注金額は、シルバー派遣事業が 3.1%、2,819 千円の順調な伸びを見せたほか、最低賃金の上昇に合わせて平成 27 年 4 月から受注基準単価を改正したこともあって、全体で 755,425 千円と、前年度と比較して、4.2%、30,444 千円の大幅増となり、4 年続けて前年度を上回った。

一方、会員数が平成 27 年度末で 1,854 人と、前年度に比べ-0.6%、11 人の減となり、就業者数は、1,500 人と前年度と比較して-1.7%、26 人の減となったことから、就業率は、前年度から-0.9%微減の 80.9%となった。

個々の施策では、高齢社会に対応し、将来にわたり魅力あるセンターを目指すため、新規会員の勧誘に努めたほか、新入会員研修や剪定・除草などの就業形態別の研修、就業相談を実施したほか、受注量を増やす対策として、シルバー派遣の専任担当者を 1 名増員の 2 名配置として、団塊の世代のサラリーマン退職者の就業に相応しいシルバー派遣事業などの開拓にも努めた。

さらに、地域ニーズ対応事業として新しく「剪定枝葉等リサイクル事業」をスタートさせ、将来には独自事業として自立するよう取り組んだ。

企画提案事業として前年度に補助期間が終了した「遍路への観光案内・お接待事業」と「放課後児童ふれあい育成支援事業」は、広く好評を得たことから、センターの社会貢献と PR 事業として取り組んだ。

財政健全化対策として、経費節減等の事務運営改善・効率化に努めるとともに、高松市には高齢化社会でのシルバー事業の重要性を強く訴えて、公共からの発注増と補助金の維持を要望してきた。

また、安全・適正就業への取組みとしては、「安全保護具適正使用促進要綱」に基づき、就業前に職場安全チェックシートの記帳を推進したほか、損害賠償事故の減少を図るため、会員に対する加害反則金制度の周知に努める一方、派遣事業を活用した適正就業の推進を図ったほか、長期間、同一職場に就業する会員を対象とした適正就業の取組みを行うなど、安全就業の徹底と適正就業の推進に努め、傷害・損害の事故件数が昨年度の 35 件から 15 件に大きく減少した。

さらに、会員に対し講習会開催等の情報提供と会員と事務局の一体感を醸成するため、月刊「事務局だより」を引き続き発行し、情報の共有化に努め、健全なセンターの事業運営に努めた。